

目次	オカムラのCSR	特集	データ集	戻る
CSR経営	クオリティの追求	地球環境への取り組み	よりよい職場づくり	社会との調和

## 特集 1 産学官のパートナーシップでの取り組み

# 「木」を通じた連携で持続可能な活力を生み出す

山形県小国町は、森林資源の豊かな美しい町。子どもたちをはじめとする全世代が木とふれあって親しみ、地域の伝統である木の文化への理解や地元への愛着を深め、さらに地域ブランドとして新たな価値を創造するため、「町内産木材の利活用と木の推進プロジェクト」に取り組んでいます。オカムラは、東北芸術工科大学とともに連携協定パートナーとして同プロジェクトに参画。家具開発、デザイン、調査・研究、生産などにおけるオカムラの強みを活かし、地域創生と持続可能なまちづくりに協力しています。



2019年3月24日、小国町ファーストファニチャーの贈呈式と親子組立ワークショップでの集合写真

## 地域に還元するデザインの本質を学ぶ、産学・地域連携授業を展開

この取り組みのはじまりは、2014年度のこと。オカムラの木製家具の生産拠点である高畠事業所が山形県にあることもあり、山形市にキャンパスを構える東北芸術工科大学 プロダクトデザイン学科の藤田准教授からの要請を受け、オカムラの家具デザイナーやリサーチャーが「家具デザイン演習」の特別講師を務めました。

同学科では、社会との結びつきの中で実践的なデザイン教育を行うため、企業との産学連携授業に積極的に取り組んでいます。こ

れから社会に出て活躍する学生への教育として、製品開発の実務を踏まえたデザインの視点や、作業プロセスなどを伝えることには大きな意義がありました。

「家具デザイン演習」では、オカムラが長年にわたって培ってきたモノづくりの経験やノウハウを活かし、製品開発や調査研究に関する講義やワークショップを担当。学生によるコンセプトやデザイン提案、実寸での家具試作に対助言・講評も実施しました。



アイデアスケッチに取り組む学生のみなさん



オカムラの家具デザイナーによる講義



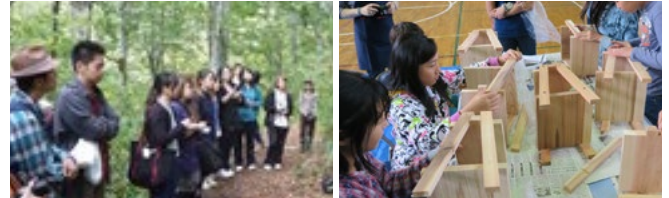
大学施設内での家具試作

目次	オカムラのCSR	特集	データ集	戻る
CSR経営	クオリティの追求	地球環境への取り組み	よりよい職場づくり	社会との調和

## 町の暮らしや営みから地域文化を学び ワークショップで住民と交流

そして2015年度からは、藤田准教授と、町の豊富な森林資源が有効に活用されていないことに問題意識を持つ小国町有志との出会いをきっかけに、町産材のブナやスギを用いた家具デザインの提案を課題とする産学・地域連携授業が展開しました。小国町は山形県の西南端にあり、新潟県との県境に位置しています。飯豊・朝日両連峰に抱かれ、広大な町土の約90%はブナなどを中心とした広葉樹の森。その白いブナの木と雪からイメージして町全体を「白い森」と表現しながら、ブランディングを行っています。

演習では、小国町での学生たちとのフィールドワークを盛り込み、木地文化が生まれた背景などを学んだほか、家具をデザインするにあたり小国町の暮らしや営みに触れる現地調査も行いました。



地域文化を伝承する「マタギ」と呼ばれる狩猟者の案内でブナの森を散策  
放課後子ども教室・ツールづくりワークショップの様子

## 小国町、東北芸術工科大学、オカムラ 産学官連携協定を締結

こうした演習や町の人たちとの交流実績をもとに、小国町の白い森ブランド推進計画事業である「町内産木材の利活用と木育の推進プロジェクト」にオカムラもパートナーとして参画。2018年7月に、小国町、東北芸術工科大学、オ



連携協定締結の様子。小国町の仁科洋一町長(中)、東北芸術工科大学の中山ダイスケ学長(右)、オカムラの岩下博樹顧問(左)

### 子どもたちが木になじみ、 親しみを持つファーストファニチャー

「家具デザイン演習」では、学生一人ひとりが家具をデザイン、試作した家具を小国町住民の方に向けてプレゼンテーションをする発表会を毎年実施しています。

2017年度の演習では、小国町に暮らす3歳児のためのファーストファニチャーの提案を課題としました。小国町での発表会・展示において住民の方から高い評価を得たキッズデスク「Deiku(デイク)」を連携協定プロジェクトの第1弾として製作・贈呈することになりました。「Deiku」という名前は、デコレーション+木育という意味で、子供たちが自分だけの家具・空間で絵を描いたり、大切なおもちゃを飾ったりしやすいようデザインされています。また、共働きの多い小国町の親御さんに、お子さんの興味や関心事は何か、「Deiku」に飾られたものを通して知ってもらいたい、という想いも詰め込まれています。



### VOICE

みんなが一人ではなく、つながりながら挑戦していくことを、これからも大切にしたいです。



東北芸術工科大学 プロダクトデザイン学科 准教授  
藤田 寿人 様(中)  
学生  
佐藤 文奈 様(右) 及川 高弘 様(左)

[藤田先生・談]

学生にはよく「相手あつてのデザイン」という話をしています。使う人がいることをリアルに体感できる機会こそ、さまざまな創造力が活かされ、成長のきっかけになります。このプロジェクトは三者それぞれにとっての挑戦です。それぞれが繋がっていることを実感できるのは幸せなことだと感じます。

[佐藤さん・談 Deikuデザイナー]

親子が協力して作ることでできる、簡単な構造にしました。お家でさらに色を塗ったり絵を飾るなどアレンジできますから、子どもたちの創造性を育み、また、家具を通して親子のコミュニケーションが生まれる一助となればうれしいです。

目次	オカムラのCSR	特集	データ集	戻る
CSR経営	クオリティの追求	地球環境への取り組み	よりよい職場づくり	社会との調和

## 2019年春、小国町の3歳児の一人ひとりにオリジナル家具を贈呈

2019年3月、おぐに開発総合センターで、ファーストファニチャーの贈呈式を開催。対象となる3歳の子どもたちは46人中、29組の親子が参加しました。はじめに小国町の仁科町長、オカムラの岩下顧問から、3歳児一人ひとりに「Deiku」の天板を手渡し。みんなの名前の刻印が入った、世界に一つだけの家具です。当日は贈呈式に続いて、同じ場所で親子、家族みんなによる組立ワークショップが開催されました。



天板や棚板などの部材をボルト締めして完成する「Deiku」。安全性を確保し、全体に丸みを帯びたデザイン。両脇には小さな飾り棚があり、持ち運び用の取っ手もあります。



材料の町産のスギは地元の製材所とオカムラが製材・乾燥させ、「白い森 木工館」が加工しました。こうした取り組みの中で、オカムラの高島事業所(写真左)との技術交流にもつながっています。



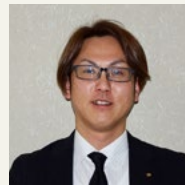
「木の匂いがいいね」と感動するお父さん。六角レンチを巧みに回すお子さんの姿に「上手だね!」と驚くお母さん。「私の名前が書いてある」と喜ぶ女の子や、「できた! できた!」と飛び跳ねる男の子。帰る時に「これでちゃんとお勉強するんだよ」と微笑むご家族の姿も見られました。



「Deiku」は各家庭で子どもの創造性を育みながら、さまざまな姿で使われています。

### VOICE

小国町の象徴でもある木に、町民が触れる機会をこれからも大切にしていきたいです。



小国町産業振興課  
白い森ブランド戦略  
担当係長

高橋 俊典 様

これまでの取り組みが、ファーストファニチャーの贈呈式という結実した形になり、とてもうれしく思います。こうした取り組みに、なんとか「小国町の木」を使いたいとずっと考えてきました。それを、町の人たちの顔が見える形で、町オリジナルの家具として多くのご家族に渡すことができ感無量です。

何年経ってもこの家具を見ながら「懐かしいな」「家族で作ったんだな」と思っただけで、この町に生きる私たちの共通の思い出になったら幸せなことです。だからこそ、こうした取り組みを継続する意味はとても大きいと思いますし、これからもぜひ続けていきたいです。

一つの家具が変えられるのは、家庭の景色だけではなく、未来のデザイナーを育てるとともに、町では木工や家具づくりなどの雇用創出・産業の活性化に寄与できる可能性を秘めています。「木」の魅力をより多くの人に伝えながら、健全な地域産業の振興、森林の保全につながる継続した活動を行い、今後もSDGsの目標に向けて努力していきます。

### VOICE

みんなで一緒に、一つのことに對して取り組むことの重要性を心の底から感じます。



株式会社オカムラ  
企画部 きづくりラボ 室長  
角田 知一

地域材の利活用や地域創生に従事しているため、今回のプロジェクトには東北芸術工科大学の家具演習特別講師として、またオカムラの家具デザイナーとして発足前から関わっています。本プロジェクトは「町を良くしたい!」という町の有志の熱い思いがきっかけとなり、それに心を動かされた人たちが徐々に加わり、その活動成果が見事に実って産学官協定へとつながったボトムアップ型のものです。

木材は工業材料とは異なり、地域の土地や地域の人々により育てられ作られたものです。その材を家具として使わせていただくオカムラにとって、町の皆さんとつながりを持ち、協力し合うことは重要な意味を持ちます。人々や町が幸せになっていくことへのささやかなお手伝いを、これからも広げていきたいと思っています。